

地方都市行政調査 報告書

委員会	文教委員会		
調査年月日	令和6年10月30日(水)	調査場所	岡山県
委 員	委員長 大竹さよこ 副委員長 かねだ 正副委員長 西の原ゆま 委員 小泉ひろし 委員 岡安たかし 委員 渡辺ひであき 委員 佐藤あい		

調査項目	岡山型長期欠席・不登校対策スタンダードについて
調査の目的	岡山県では、平成31年3月に「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」を全校に配布し、全県で統一的な対策に取り組んできた。新たに「別室指導」と「ＩＣＴの活用」に関する「増補版」の作成・配付を契機にスタンダードの再確認とさらなる指導の徹底を目指してきた。全ての児童生徒の社会的自立に向け、各学校の生徒指導体制や取組のチェック、未然防止と早期対応を中心とした長期欠席・不登校対策等の取り組みについて、調査・研究を行う。
調査内容	岡山県では、令和元年度より、学校が児童生徒にとって安心できる「居場所」となることを目指し、専用教室（別室）を活用した不登校対策別室指導実践研究を進めている。また、実践研究校においては、児童生徒と「つながり」を切らないためのＩＣＴを活用した不登校対策にも積極的に取り組んでいる。個々の状況に応じた学習支援や生活支援がよりきめ細かく行えるため、別室利用者の約9割に欠席日数の減少や学校で過ごす時間が増えるなどの改善傾向が見られる。
主な質疑	<p>(問) 学習塾との連携はあるか伺う。</p> <p>(答) まずは、生活リズムの支援や登校の支援を行うことが目的のため、現在は考えていない。</p> <p>(問) 長期欠席・不登校対策スタンダードの反響はあるか伺う。</p> <p>(答) 各校・各教員へ意識改革が浸透してきた。</p> <p>(問) 不登校対策の早期対応としてどのような取組を行っているか伺う。</p> <p>(答) 欠席1日目に保護者へ連絡。2日目は再度保護者へ連絡し、子の様子を聞き欠席理由を再確認する。場合によっては家庭訪問を行い、本人の状況を確認する。3日目は家庭訪問を行い、本人と話しをして様子を確認するとともに、保護者とも最近の様子について話をする。</p> <p>(問) 不登校対策として、欠席1日目から保護者への連絡等対応していることは先生の業務負担にはならないのか伺う。</p> <p>(答) 1クラスで見ると1人か2人のため、現在のところはそこまで負担にはなっていない。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	登校アプローチとして、従前の欠席日数別の対象分けに、個々の状態の7段階分けを加えて、より適切な支援の実施、スマールステップで改善していることや、起立性調節障害対応ガイドラインを取り入れ、不登校児の病状や配慮事項の共通理解を図り、必要な支援を連携して行う本事業は大変先進的であった。

地方都市行政調査 報告書

委員会	文教委員会		
調査年月日	令和6年10月31日(木)	調査場所	山口県岩国市 (現地視察: PLAT ABC)
委員	委員長 大竹さよこ 副委員長 かねだ 正副委員長 西の原ゆま 委員 小泉ひろし 委員 岡安たかし 委員 渡辺ひであき 委員 佐藤あい		

調査項目	「PLAT ABC」の事業概要について
調査の目的	魅力的な英語交流のまちを実現するため、岩国市の PLAT ABC を調査する。
調査内容	<p>[施設概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 施設名称: 岩国市英語交流センター 愛称 PLAT ABC (2) 設置目的: 英語の学びや学びなおしの機会の充実を図り、国際交流を促進することで、魅力的な英語交流のまちを実現する。 (3) 開設日: 令和4年3月26日 (4) 所在地: 岩国市元町一丁目1番1号 レジデンス岩国駅東 (5) 開館時間: 午前9時から午後7時まで 火曜日休館 (6) 指定管理者: 合同会社 DMM.com <p>[利用状況]</p> <p>1 入場者数</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度: 2,523人 (2) 令和4年度: 30,577人 (1日平均 99人) (3) 令和5年度: 30,157人 (1日平均 98人) (4) 令和6年度: 20,556人 (1日平均 132人) <p>2 イベント実績</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度: 10件 (182人) (2) 令和4年度: 163件 (4,611人) (3) 令和5年度: 133件 (4,113人) (4) 令和6年度: 46件 (1,148人) <p>3 創設の経緯・取組・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人口減少、高齢化による地域活力の低下 (2) 活気ある地域・若い世代を中心とした幅広い層に選ばれるまちを目指している (3) ALTの全校配置や小学校1年生からの英語教育 (4) 小学校1年生からの英語教育

地方都市行政調査 報告書

委員会	文教委員会		
調査年月日	令和6年11月1日(金)	調査場所	福岡県那珂川市
委 員	委員長 大竹さよこ 副委員長 かねだ 正副委員長 西の原ゆま 委員 小泉ひろし 委員 岡安たかし 委員 渡辺ひであき 委員 佐藤あい		

調査項目	那珂川スタンダードとICTの効果的活用について
調査の目的	ICTを活用した個別最適な学びを研究するため、那珂川スタンダードとICTの効果的活用についてを調査する。
調査内容	<p>小中学校を通して、「深い学びに向かう振り返り」を重視し、児童生徒が「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」を実感できる授業である「那珂川スタンダード【教科編】」と学習基盤の確立を目指す「那珂川スタンダード【基盤編・追補版】」を基本に、計画的・継続的に「確かな学力」を身に付けさせる授業改善を推進している。</p> <p>1人1台のタブレット端末や、各学級に整備したプロジェクター、スクリーン等のICT機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ります。さらに「那珂川市ICT教育推進計画」に基づき「那珂川スタンダード」とICTの効果的な活用のベストミックスにより主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っている。</p> <p>市全体での学校教育におけるICT利活用に力を入れており、その成果が認められ、2023年10月には学校情報化先進地域に認定された。今後も、より豊かな未来を創り出す子どもの育成を目指している。</p>
主な質疑	<p>(問) 那珂川スタンダードで特に力を入れていることについて伺う。</p> <p>(答) できるようになったこと・できなかつたこと・次は何をしたいか等、特に振り返りの時間を大切にしている。その中で、自己評価と振り返りの違いを明確にしている。振り返りを蓄積していくと、1つのワークシートが完成し、単元全体のまとめができるようになっている。デジタルで作成しているが、あえて紙で教室などに掲示し、振り返りの質を高めるようにしている。</p> <p>(問) タイピングスキルコンテストの目的について伺う。</p> <p>(答) 入力の速度・精度を上げることが1つの目的。ICT端末導入時に子どもたちの入力について想定より時間を要していた。また、それを理由に「だったら、ペーパーへ」とならないようにタイピングコンテストを設けた。授業の効率化にもつながっている。</p> <p>(問) ICT利用と学力向上の関連性について伺う。</p> <p>(答) 回答者の正誤によって、次の問題の難易度が変わることで、生徒1人1人のレベルに合わせた問題に取り組むことができ、学力向上につながっている。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	ICTの活用は、授業のみならず、校務での活用も進んでいた。プログラミング教育に係るモデルカリキュラムづくり、タブレットによる健康観察など、県の研究指定等を受け、個別最適な学びに取り組んでいる本事業は大変先進的であった。